

2014年8月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097
 ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>
 発行: 安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



平成25年度の稲WCS専用収穫機実演会の様子

安房管内の稲WCSを用いた
新たな自給飼料生産の取組み

近年、酪農家にて輸入飼料依存から脱却するために、自給飼料生産の必要性を見直そうという動きが出ています。

昨年度、鴨川市では新たな取組みとして、水田1.5haで稲WCS専用収穫機の実演会を行いました。今年度も5.0haで専用収穫機の実演会を行う予定です。さらに、館山市と南房総市では水稲農家と畜産農家が連携し、稲WCS専用品種「たちすがた」の試験圃を設置しました。食用品種と比較を行い、専用品種の安房地域における適応性の検証に取り組んでいます。

最近安房管内で少しずつではありますがありますが、稲WCSの生産事例が増えてきています。耕畜連携の手段として、農業事務所では引き続きサポートしていきたいと思えます。

ジアミド系殺虫剤に対する感受性を低下させたコナガの発生について

〈現状〉

千葉県の葉菜類ではチョウ目害虫に対する防除としてジアミド系殺虫剤による化学的防除が広く普及しています。

〈防除効果の低下〉

昨年末、千葉県北東部の春系キャベツ産地においてコナガに対するジアミド系殺虫剤の防除効果が低下している可能性が報告されました。

農林総合研究センターでこれらコナガに対する薬剤感受性検定を行った結果、ジアミド系殺虫剤に対する感受性の低下が確認されました。

〈対策〉

同時期に安房地域で採集されたコナガでは、このようなジアミド系殺虫剤に対する感

受性の低下は確認されませんでした。したが、これらの薬剤を連用した場合、抵抗性が発達する可能性があります。

特定系統の剤に依存せず、複数の系統の薬剤を組み合わせたローテーション防除ができていないか再度確認し、確実に実施してください。

《主なジアミド系殺虫剤》

- ・フェニックス顆粒水和剤 (フルベンジアミド)
- ・プレバソフフロアブル5 (クロラントラニリプロール)

発生予察に基づく
的確な防除剤選定、
ローテーション防除
に努めて下さい!

花き類の販売促進活動のポイント

生産者が思っている以上に、花の商品情報は生花店や消費者へ伝達されていないのが現状です。このため、産地からの花き情報の積極的な発信が求められています。そのひとつが生産者による販売促進活動です。優良事例として今年で5年目となる「西岬ひまわりフェア」を紹介します。

フェアは、5月中旬から6月上旬にかけて、都内24店舗の生花店で開催されました。店内には、ひまわりを使った千円〜5千円のアレンジメントが並び、お客の予算に応じた商品提案がされており、店員さんの豊富な商品知識を背景に、要望に合わせた丁寧な対面販売がなされていました。店内ではお客様により一層ひまわりに興味を持たせるために、生産者チームが接客し

ました。接客により、生産者はお客が求める商品を知るきっかけとなりました。

販売促進活動の目的は、当日の売り上げ増加ではなく、消費者に自分たちの想いを伝え、商品を理解してもらうことです。

今後、産地は自分の商品のセールスポイントを実需者(市場・仲卸・小売店等)にしっかりと伝えることが重要になります。販売力を高めるために、販売促進活動を積極的に展開してみたいかがでしょうか。



ひまわりフェアでは生産者が商品説明をしました

水田雑草の秋冬期防除

水田において、「オモダカ」「クログワイ」「コウキヤガラ」等、塊茎で増える雑草が年々増加し、問題となつていきます。これらの多年生雑草は、発生期間が長いので、稲の生育期間中では除草剤の体系処理（初期剤・中期剤・後期剤の組み合わせ処理）が必要で

秋季の再生雑草には除草剤処理

す。水田にどんな雑草が発生するか正確に把握し、なぜ、田に雑草が残ってしまったのか検証し、使用する除草剤を検討してください。

来年の米作りに向けて秋から次のような対策を行います。

多年生雑草には秋冬防除

稲刈り直後から厳冬期までの間にロータリー耕を行い、雑草の地上部を埋没したり、茎や根を切断することで塊茎の形成量を抑えることができます。多年生雑草の塊茎は低温や乾燥に弱いので、良く乾

燥する田では冬期の耕うんにより塊茎を掘り出し、地表面にさらすことで、塊茎の形成量を減らす効果があります。

稲刈り後に再生してきた一年生雑草・多年生雑草は非選択性の茎葉処理剤（ラウンドアップマックスロード、バスタ等）の散布により防除が可能です。地上部を枯らすとともに、浸透移行性があるため地下部の塊茎等にも効果が期待できます。

また、水田にほふく茎をのばして畦畔から侵入するイネ科雑草（アシカキ、キシユウスズメノヒエ等）の防除にも効果的です。ただし、低温になり雑草の生育が停滞する頃になると浸透移行の効果が落ちるので散布時期に注意してください。

がんばっています！

「若手女性農業者グループ」

当事務所では安房地域の若手女性農業者を対象に平成21年からセミナーを開催しています。農業経営のパートナーとしての知識・技術の習得と、若手女性農業者の交流を支援しています。

「ひだまり」はそのセミナーの有志によって、平成23年2月に結成されたグループです。「ひだまり」のように誰でも自由に参加して、交流できる暖かい場所を目指して名付られました。農家の跡取り娘や、県外から農家に嫁いだ方など、様々な若手女性農業者が参加しています。

活動は、先輩農業者から生活技術の伝承、自主的な情報交換会の開催、県内の他地域の若手女性農業者グループとの交流などです。

今年度も、香取地域の女性

農業者グループとの交流や、農産物活用研修として、米粉パン作りの実習を行いました。秋には視察研修会を計画しています。子供と一緒に参加でき、楽しく学べる場づくりを心掛けていきます。



先輩から太巻き寿司を習いました

新規会員も募集中です。お気軽に改良普及課までお問い合わせください。

地域で取り組むいちじく栽培
館山市いちじく組合の挑戦!

高齢になっても取り組め、観光資源としても活用できるいちじくについて、館山市の新規栽培者が平成23年に組合を設立（組合員数11名）し、直売、観光、市場出荷、加工品販売、ちばエコ農業等に取り組んでいます。近年は関係機関からの支援を受け、地域内外でのPRが進み、産地として認知度が高まっています。組合では技術の習得、販路の確保、環境に優しい農業の実践等について主に活動しています。

栽培経験年数が浅い組合員が多いため、栽培講習会は年4回程度開催し、技術習得を目指しています。販路の確保については、規格外品を活用し、地域の加工業者と連携し加工品を作りました。さらに、それらの販路を開拓するため、館山市と協力して小売、

旅館業者等を対象とした加工品発表会を実施し、多くの実需者にPRができました。また市場出荷は昨年共同予冷施設を整備し、今年度から本格的に取り組みます。さらに、組合員全員がちばエコ農産物認証を受け、減農薬、減化学肥料栽培を実践しています。今後数年間で、収穫量が増加するため、安定した販路を確保することが課題です。特に、いちじく狩りや市場販売の割合を増やし、消費者に信頼される産地となるように今後も支援を行います。



加工品発表会の様子

あなたもスナップエンドウ栽培に挑戦しませんか？

安房地域では平成19年からスナップエンドウ栽培が始まりました。寒さに強く最低温度が3℃以上あれば栽培できるため、燃油代が削減でき、施設栽培の転換品目として注目されました。

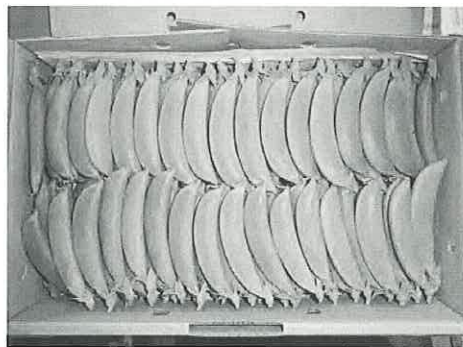
現在は生産者28名が「安房スナップエンドウ組合」を結成し、市場や直売所出荷に取り組んでいます。



圃場のスナップエンドウ

○栽培のポイント
分枝の少ない極早生品種

「ニムラサラダスナップ」をパイプハウスや鉄骨ハウスで栽培しています。9月上旬〜10月下旬に播種をすると、約3カ月で収穫が始まり、12月〜4月まで収穫することができます。組合のスナップエンドウは丁寧にも並べる荷姿で、高級百貨店でも販売されています。



美しい荷姿

近年、消費者にも人気のスナップエンドウの栽培に取り組んでみませんか。御興味のある方は、安房農業事務所改良普及課まで御相談ください。